

NPO 法人 純正律音楽研究会会報 ～2023 年 4 月発行～

ひびきジャーナル



〒169-0073 東京都新宿区百人町 4-4-16-1218 Tel:03-5389-8449
Fax:03-5389-8449 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 2023 年 4 月 5 日
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会
編集 相坂政夫

No.75



春の日差しを感じる心地よい気候となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

玉木宏樹が設立した、純正律音楽研究会は 2003 年に NPO 法人として認定され早 20 年になります。その玉木宏樹が 2012 年 1 月 8 日に天国へ、また、奥様の玉木とみ子様も 2022 年 11 月 8 日に天国へ召されました。

玉木宏樹が提唱する純正律とは、音の響き方が自然現象そのもので、音響物理学上の音程関係そのものが純正律なのであり、どこをさがしても自然界には平均律などという人工的な音程は存在しません。極論すれば、自然界の「波動」「振動」すべて純正律であります。日本でただひとり純正律の CD をいち早く出した玉木宏樹を始めとする NPO 法人純正律音楽研究会が純正律音楽 CD の普及運動を始めたのです。

今後は、水野佐知香代表と共に、微力ながら純正律及び各種自然音律音楽普及のため努力してまいりたいと思っております。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

コロナ禍から3年

洗足学園音楽大学客員教授・ヴァイオリニスト
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表
水野佐知香

すっかり春、以前は入学式に桜だったのが、今年は卒業式に桜が咲き、時代の変化を感じます。会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか？

この3年コロナで明け暮れ、昨年からはウクライナ戦争、昆虫食など世の中は、何かとてもおかしくなっているように思います。

最近では外人の旅行客も増えてきて、新幹線に乗っても大賑わい！とても嬉しく思います。コンサートも復活しマスクの制限もなくお客様も伸び伸びとさされているように感じます。

海外からも素晴らしい演奏家が来日しています。私はスケジュールが合わなく行けなかったのですが、特にヴァイオリニストのコバチンスカヤはすごかったようです。東京都交響楽団とリゲティの作品を演奏！写真で見ると衣装、メイクも普通では考えられない顔で面白い！玉木さんが生きていたらリゲティの曲を何と言ったかな？聞いてみたかったです。

ベートーヴェンがお好きでなかった玉木さんでしたから！

コロナ禍になり3年が過ぎ、マスクやワクチンの弊害など、考えさせられることばかりです。WHO ではワクチンの接種が必要ないことを発表したそうですが、この3年間は何だったのか、とても疑問に思います。

先日も面白い話を聞きました。

日本のスーパーに売っている透明の袋に入っている人参をあまりにも綺麗なもので、中国の富裕層向けに販売したら、買わない人続出だそうです。ようするに、お野菜は不揃い、土付きが当たり前、形が揃って綺麗すぎて気持ちが悪いそうです。

スーパーで売っているお醤油についてもびっくりです。本当は良質の大豆を自然にゆだねて1~3年かけて作るものだそうですが、スーパーで売られている醤油は、ほとんどは水より安く、お水に色をつけて添加物をたくさん入れて大豆も家畜にあげるようなものを入れているようです。使う私たちが食べ物は薬だと思って、良いものを選んで欲しい！とつくづく思います。

次から次に問題が起きる世の中ですが、常に感謝をして、次に生まれ変わることを信じてコツコツ精進したいと思うこの頃です!!

玉木さんは今頃どこで生まれ変わっているのでしょうか!?

ムッシュ黒木の純正律講座 第 74 時限目
平均律普及の思想的背景について(63)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

標題音楽と絶対音楽という対立を一回設定してしまうと見えなくなってしまう部分が出てきてしまうのではないか、と思う。絶対音楽とは歌詞、踊りや標題などを音楽外の要素とみなし音楽の本質を器楽の音響性それ自体に求める思想であるのに対し、標題音楽とは音楽が伝えるものは題名や説明文などの標題が喚起する心象風景であると考え。音楽の定義を、音楽だけに求める考え方と音楽外の要素も含めようとする考え方の違いとも言える。このように書くと、まるですべての音楽が標題音楽と絶対音楽の二つに分けられてしまうように思えてしまう。しかし、この音楽を二つに分けてしまうことによって、見えなくなってしまうものが確実に存在するのだ。

まず、人類の長い歴史の中で標題音楽自体が 18 世紀末に出現した比較的新しい斬新な考え方であったことに留意したい。標題音楽は音楽が言葉と同じように何か意味のあるメッセージを伝えることができると考える。それまでは、音楽とは歌詞や踊りの伴奏に過ぎず、それ自体では何らかの意味を持つことはないと言われていた。例えば、ジャン＝ジャック・ルソーの言葉をいくつか紹介しよう。

劇や芝居の〈音楽〉は〈詩〉や〈絵画〉と同じように模倣 (imitation) をめざしてなされるものだ。そしてすべてのボーザール(芸術)はこの共通原理を介してつながっているのだが、これはル・バトゥー氏が指摘したとおりである。

模倣 (imitation) は、技術的な意味におて、まさに歌自体を用いることなのだ...

交響曲は〈歌〉を生き生きとさせ、その表現を募らせるが、しかしその代わりとなることはない。

ここでは模倣 (imitation) という表現に気をつけてみたい。人が目にする光景を言葉や絵は巧みに表すことができるし、人の心情を言葉は説明することができる。芸術の役割とはまさにこの模倣 (imitation) であると言うわけだ。芸術はこの模倣 (imitation) をする技術を中心に成り立っているというのが、西洋の芸術理論の中心なのだとこのことを確認しておきたい。

古来、音楽もこの模倣 (imitation) の理論の範疇にあるとされてきた。国安洋氏がまとめた中世の音楽理論化のポエティウスの説明を引用してみよう。

(1) ムシカ・ムンダーナ (宇宙の音楽)

天体の音楽も坪ばれる。宇宙は音楽をもって鳴り響くというのではなく、天体の調和的運動、あるいは宇宙の調和それ自体のことである。

(2) ムシカ・フマーナ (人間の音楽)

人間の作り出す音楽という意味ではない。「魂の調和」であり、宇宙の音楽と同様に人間の耳で聴くことの出来ない音楽である。

(3) ムシカ・インストゥルメンタリス（器官の音楽）

楽器とか人間の声帯という器官で生み出す音楽である。この音楽のみが耳で聴くことが出来るものであり、これが今日の我々の意味での音楽に当たる。

普段、私たちが耳にしている音楽は3のムシカ・インストゥルメンタリス（器官の音楽）のみで、1と2の音楽は耳で聴くことのできない音楽である。宇宙とか世界とか、この世を成立させているシステムの模倣になっている限りにおいて価値のである芸術音楽であるという理解だ。耳に聞こえる3の音楽は1と2の音楽の模倣である限りにおいて価値がある。このことをミーメーシスの原理という。

上述のルソーによれば、音楽がこのミーメーシスの技芸であり得ているのは、あくまでも言葉を介してであるということになる。ということは音楽は言葉抜きでは芸術たり得ないということだ。

対して、音楽、つまり楽器の音の響きの技芸であっても、言葉と同じように、何らかのメッセージを伝えることができる、という考えが標題音楽の思想であり、当然、その考えはヨーロッパの長い芸術の歴史の中で斬新なものであったのだ。実際、ドイツ音楽からの影響で標題音楽に触れたフランスの詩人ボードレールは以下のように言っている。

音楽は、言葉＝パロールや絵画とは違って、何者にもあれ的確に翻訳すると自負するわけにはゆかないと、私はよく聞かされてきた。それはある程度まで真実だが、完全に真実ではない。音楽は音楽なりに、自らに特有の手段によって翻訳する。音楽においても、絵画におけると同様、いやそれどころか、芸術の中で最も実証的なものである書かれた言葉＝パロールにおけると同様、聴く者の想像力によって補足される一つの空隙が常に存する。

そしてこの理論をフランス詩人たちにもたらしたのはヴァーグナーであった。更に、ボードレールの言葉を引いてみよう。

ヴァーグナーが、音楽(劇的な)は感情を語らねばならぬ、言葉と同じ正確さをもって感情に適合しなければならぬ、しかし、言うまでもなく別の流儀で、つまり、あまりにも実証的なものである言葉では言い表し得ぬ感情の不明な部分を表現しなければならぬと繰り返すことを決してやめなかったものだから(この点で彼は分別ある精神たち皆に受け入れられぬようなことは何一つ言っていなかった)、多くの人々は、新聞書評欄の冷やかし屋どもを信じこんで、楽匠は事物の実証的な形態を音楽に振り当てている、つまり役割や機能を転倒しているのだと想像した。

贋作三人衆他、その4

純正律音楽研究会 初代代表
玉木宏樹遺作

贋作三人衆の三人目はトビア・ニコトラ(生没年不詳、1934年に56歳、イタリア人)です。私は最近までこの人の存在を知りませんでした。知ったのはバッハ研究の権威、小林義武氏の名著「バッハ伝承の謎を追う」(春秋社)でした。その本の中からトビア・ニコトラに関する部分を引用してみましよう。

かつてウィーンのある床屋がベートーヴェンの自筆譜を偽造し、金を稼いで捕まった例がある。そのような詐偽師の中で歴史上最も悪名高い人物はイタリア出身のトビア・ニコトラ(Tobia Nicotra)という男であった。彼はペルゴレージをはじめ、モーツァルト、ヘンデル、ヴァーグナーなどの作と称して多くの偽作品を作曲した「創造的な」人間であったばかりでなく、自分自身をある、有名な音楽家の名を借りて売りものにした不届き者であった。ニコトラは今日でもセレナードの作曲者として知られている、当時の流行作曲家リカルド・ドリゴ(Riccard Drigo.1846～1930)であると自称して、大胆不敵にもドリゴの死から二年後の1932年にアメリカで公開演奏会の指揮をしたのである。こうなると、作品ばかりではなく人間までも贋作ということになる。

他の本(クラシック雑学)によると、1934年にミラノで逮捕されたニコトラは56歳でした。古い書物や楽譜を偽造するには紙の質が大問題になります。昔の紙は一枚一枚が手作り、すかしも入っており、偽造は大変です。そこでフェルメールの贋作者、メーヘレンの向こうを張るかのようにニコトラは図書館から作曲者の空白の頁を盗んできて、作曲し、本物そっくりの署名まで書き込んだのです。こんなことに心血を注ぐんだったら、と思ったりするのは愚かな凡人(私)のセンスなんでしょう。

三人衆以外の贋作者を2.3紹介しておきましょう。「アルビノーニのアダージョ」として有名な曲は、イタリアの古楽研究者、レーモ・ジャズット(1910～1998)の作だと言われています。またカッチーニの「アヴェ・マリア」として有名な曲は、ロシアのギタリストで作曲家だった、ウラディミール・ヴァヴィロフ(1925～1973)の作です。ヴァヴィロフは古楽演奏家として活躍しましたが、作曲もやりました。しかし彼の作品はすべて過去の人の名を借りた贋作です。

昔、ペルゴレージの代表作とされていた「コンチェルト・アルモニコ」は、オランダのヴァーセナール伯というアマチュアの偽作だったことが判明しています。「エストレリータ」の作曲者として有名なマヌエル・ポンセもギター曲で贋作を書いているそうですが、詳しいことは分かりません。この人たちは皆、自分の著作権を放棄しています。金よりも、人を騙す方が快感だったのでしょ

CD レビュー 純正茶寮
『Kartehl』 (2022)
純正律音楽研究会理事 黒木朋興



『Kartehl』 (2022)

MAGMA

レーベル : Seventh Records

ASIN : B0B7QT6THH

昨年の秋、8回目の来日ライブを果たしたフランスのジャズ・ロックの雄、Magma が昨年発表したアルバム。昨年の来日はこのアルバムの発表を機に行われたツアーの一環である。なお、私はそのツアーで通訳を務めている。

コロナ期にツアーが出来なかった期間に、リーダーのクリスチャン・ヴァンデをはじめ複数のメンバーが曲を持ち寄ってレコーディングをしたのがこの作品だという。

前回の来日から大幅に入れ替わったり、新しいメンバーが加入したりして、新しい陣容でまた別の音になっている。

特筆すべきは新たに加わった3人の女性ヴォーカルだろう。カオリン・インジェンはオペラ歌手の教育を受けてきた人だけあってものすごい声量だ。夜の大阪の繁華街でいきなり歌い出した時は、住宅街でこれだけの音を出したら公害レベルだと思った。ローラ・グワラトはLES VOIX De GAÏAというアカペラグループでの活動も行なっている。東京行きの新幹線の中で、流れてきた『エーデルワイス』にカオリンと即興でハモっていた。シルヴィ・フィシュラは声楽の教師もしている。Magmaの音楽にとって人間の声はとても重要な要素だけに、この3人の加入は極めて効果的であったと言える。

クリスチャンの楽曲は新曲ではなく、過去のデモテープから選んで仕上げたもの。他にヴォーカルのエルベ・アクナンや鍵盤のチェリ・エリエズとシモン・グベールが楽曲を提供している。エルベはやはりアカペラグループの活動もしているの、ハモリを重視した曲になっている。ヴォーカルラインはユニゾンが多いMagmaの楽曲にあってハモる楽曲は珍しいものだ。

基本、クラシックの教育を受けているメンバーが多く、堅実な出来になっている。

ヨーロッパの国々(2)

NPO 法人 純正律音楽研究会
正会員 弁護士 齋藤昌男

目次

第4. 北ヨーロッパ (8ヶ国)

1. デンマーク
2. エストニア
3. フィンランド
4. アイスランド
5. ラトビア
6. リトアニア
7. ノルウェー
8. スウェーデン

第5. 南ヨーロッパ (8ヶ国)

1. アンドラ
2. スペイン
3. ギリシャ
4. イタリア
5. マルタ
6. ポルトガル
7. サンマリノ
8. バチカン

第6. 西ヨーロッパ (11ヶ国)

1. オーストリア
2. ベルギー
3. スイス
4. ドイツ
5. フランス
6. アイルランド
7. リヒテンシュタイン
8. ルクセンブルグ
9. モナコ
10. オランダ
11. イギリス

記

第4. 北ヨーロッパ (8ヶ国)

1. デンマーク王国 (Kingdom of Denmark)
 - (1) 首都 コペンハーゲン (Copenhagen) (人口 59.4万人)
 - (2) 面積 4.3万km² (九州よりやや大きい)
 - (3) 人口 579.2万人 (兵庫県よりやや多い)
 - (4) 言語 デンマーク語 (公用語)、ドイツ語、英語

- (5) 民族 デンマーク人91.9%、トルコ人0.6%、ドイツ人0.5%
 - (6) 宗教 デンマーク国教会（福音ルーテル派）80.7%、イスラム教3.7%、カトリック0.7%
 - (7) 略史 (i) デンマークを含む北欧の9世紀頃はバイキング時代、(ii) 1397年、カルマル同盟（デンマークを盟主としたノルウェー・スエーデンとの3王国同盟）を築きました。(iii) 1523年スエーデンが分離。(iv) 1814年、ノルウェーをスエーデンに割譲。(v) 1864年、プロイセン・オーストリア戦争に敗北、南部の肥沃な土地を奪われました。(vi) 1944年、アイスランドが分離独立。(vii) 1972年、北海で油田発見。
 - (8) 地勢 ユトランド半島および周辺の島々（約500）から国土は出来ており、全土が平坦。
 - (9) 自治領 (i) フェロー諸島、(ii) グリーンランド
2. エストニア共和国 (Republic of Estonia)
- (1) 首都 タリン (Tallinn) (人口 42.3万人)
 - (2) 面積 4.5万km² (秋田県の4倍位)
 - (3) 人口 132.7万人 (長崎県とほぼ同じ)
 - (4) 言語 エストニア語 (公用語)、ロシア語 エストニア語はフィンランドに近くバルト語派でないなどの特徴を持っています。
 - (5) 民族 エストニア人68.7%、ロシア人25.6%、ウクライナ人2.1%、ベラルーシ人1.2%、フィンランド人0.8%
 - (6) 宗教 福音ルーテル派13.6%、正教12.8%、バプティスト0.5%、カトリック0.5%、無宗教34.1%
 - (7) 略史 (i) 10世紀までに現在のエストニア民族が形成されてゆきました。(ii) 第1次世界大戦末期の1918年にロシア帝国より独立。(iii) 第2次世界大戦中、ソ連より6万人以上が強制送還や命を落とす事態に見舞われました。(iv) 一方ソ連からの大規模な移民が始まり、人口に占めるエストニア人の割合は戦前の9割に対し、20世紀末には約6割代まで減りました。(v) しかし、ソ連からの独立後、国内に残った残留ロシア人の問題を抱えています。
 - (8) エストニア式サウナ フィンランドに負けず劣らずのサウナ大国で、タルの湯船とサウナ小屋で体を温めた後、極寒の小川や池にダイブするのが流儀。
3. フィンランド共和国 (Republic of Finland)
- (1) 首都 ヘルシンキ (Helsinki) (人口 62.4万人)
 - (2) 面積 33.8万km²
 - (3) 人口 554.1万人 (オーランド諸島を含む)
 - (4) 言語 フィンランド語 (公用語)、スウェーデン語 (公用語)、ロシア語、サーミ語、ロマニ語、カレリア語
 - (5) 民族 言語による (フィンランド人90.5%、スウェーデン人4.9%、ロシア人1.1%、エストニア人0.6%)
 - (6) 宗教 キリスト教 (福音ルーテル派78.3%、正教1.1%)、無宗教19.2%
 - (7) 略史 (i) 1155年スウェーデンがフィンランドに北方十字軍を

派遣、フィンランドを征服し、キリスト教を広めました。(ii) 1323年スウェーデンとロシアの国境が確定。(iii) 1809年スウェーデンはフィンランドをロシアに割譲、ロシア皇帝が大公を兼ねるが、自治権を持つフィンランド大公国が建設されました。(iv) 1917年ロシア革命の際に独立を宣言し、共和国となりました。(v) 冬戦争(1939年)、継続戦争(1941年)で旧ソ連に敗北、国土の12%(カレリアなど)を割譲。(8) フィンランド共和国の自治領(オーランド諸島) バルト海、ボスニア湾の入口に位置する6,500以上の島からなり、人口は3万人。

4. アイスランド共和国 (Republic of Iceland)

- (1) 首都 レイキャビク (Reykjavik) (人口 12.2万人)
- (2) 面積 10.3万km²
- (3) 人口 34.1万人
- (4) 言語 アイスランド語(公用語)
- (5) 民族 アイスランド人93.2%、ポーランド人2.7%、ノルウェー人・アジア系
- (6) 宗教 アイスランド福音ルーテル教会79.2%、カトリック3%、その他のキリスト教6.9%
- (7) 略史 (i) 870~930年頃ノルウェー人とスコットランド及びアイルランドのケルト人が植民。(ii) 930年発足したアルシングは世界最古の民主議会。(iii) 1262年ノルウェーの支配を受け、1380年デンマーク領となる。(iv) 1904年自治権を獲得し、1944年にアイスランド共和国として完全独立。
- (8) その他 (i) 火山国で約200の火山があり、18世紀のラキ火山大噴火はヨーロッパに飢饉を発生させ、フランス革命の遠因になったとの説があります。(ii) ヨーロッパ本土のように、土着の信仰を駆逐したキリスト教大旋風は届かず、このため古い北欧の神話や英雄譚が残りました。

5. ラトビア共和国 (Republic of Latvia)

- (1) 首都 リガ (Riga) (人口 64万人)
- (2) 面積 6.5万km²
- (3) 人口 188.6万人
- (4) 言語 ラトビア語(公用語)、ロシア語、リトアニア語
- (5) 民族 ラトビア人59.4%、ロシア人27.6%、ベラルーシ人3.6%・ウクライナ人2.5%、ポーランド人2.3%、リトアニア人1.3%、ユダヤ人0.4%
- (6) 宗教 キリスト教35.9%(福音ルーテル派19.6%、正教15.3%)
- (7) 略史 (i) 紀元前からバルト系の諸民族が居住。(ii) 13世紀初めからドイツ騎士団が領有を始めました。(iii) 1282年にリガはハンザ同盟に加盟して繁栄しました。(iv) リヴォニア戦争の結果、1583年リトアニア=ポーランド領となりました。(v) 18世紀ロシアが支配を確立しました。(vi) 1918年独立を宣言。(vii) 1939年の独ソ不可侵条約の秘密議定書に基づき、1940年ソ連に編入されました。強引な集団農場政策で、14万人がシベリアなどの辺境に強制送還されたとされています。(viii) 1991年旧ソ連の保守派クーデターの直後に即時独立を宣

言。

(8) その他 アイスホッケーは、1930年代に根付いた国民的スポーツで、世界ランク上位の常連です。

6. リトアニア共和国 (Republic of Lithuania)

(1) 首都 ビリニュス (Vilnius) (人口 54.3万人)

(2) 面積 6.5万km²

(3) 人口 272.2万人

(4) 言語 リトアニア語 (公用語)、ロシア語、ポーランド語

(5) 民族 リトアニア人83.1%、ポーランド人6%、ロシア人4.8%

(6) 宗教 カトリック79%、正教4.1%、プロテスタント1.9%

(7) 略史 (i) このあたりにはバルト語派という周辺のスラブ系 (現代のロシアやベラルーシ) とは、やや言語が異なる民族が暮らしていました。

(ii) ドイツ騎士団が来襲すると諸部族がまとまり、13世紀のリトアニア大公国が出来ました。(iii) 1569年ポーランド=リトアニア共和国が成立。(iv) 1918年独立宣言。1939年の独ソ不可侵条約の秘密議定書により、1940年ソ連に編入。(v) 再度独立するのは1991年。同年国連加盟。

(8) その他 (i) 多声合唱スタルティス、2人から5人で歌う伝統歌唱で、歌い手それぞれが別のメロディーをかぶせるポリフォニーの形式を取ります。(ii) クルシュー砂州、砂が堆積してできた細長い地形で、砂丘と荒地が100km続く世界遺産。しかし一部がロシアの飛び地カリーニングラードであります。

7. ノルウェー王国 (Kingdom of Norway)

(1) 首都 オスロ (Oslo) (人口 66.6万人)

(2) 面積 32.4万km²

(3) 人口 541.9万人

(4) 言語 ノルウェー語、サーミ語 (話者2万人程度)

(5) 民族 ノルウェー人83%、その他ヨーロッパ系5.3%

(6) 宗教 ノルウェー国教会 (福音ルーテル派) 79.2%、その他キリスト教4.9%、イスラム教1.8%

(7) 略史 (i) 9~11世紀ヴァイキング時代。(ii) 黒死病ペストで王国が断絶すると、14世紀末にデンマークの介入を許し、以降約4世紀にわたりデンマークの支配を受けました。(iii) ナポレオン戦争でスウェーデンに割譲されましたが、1905年に独立。(iv) 第2次世界大戦中はドイツ軍に占領されました。(v) 1949年NATOの原加盟国となりました。

(8) その他 (i) 北極海上にスヴァールバル島、ヤンマイエン島、南大西洋にブーベ島を領有しています。(ii) 南極探検のAmundsen、太平洋を原始的な筏「コンチキ号」で進んだHeyerdahl、北極探検のNansenはノルウェーの出身。

8. スウェーデン王国 (Kingdom of Sweden)

(1) 首都 スtockホルム (Stockholm) (人口 94.9万人)

(2) 面積 43.9万km²

(3) 人口 1,009.9万人

(4) 言語 スウェーデン語 (公用語)、英語、フィンランド語、メアンキエ

リ語、ロマニ語、サーミ語、イディッシュ語

- (5) 民族 スウェーデン人86.2%、その他ヨーロッパ系7.9%
- (6) 宗教 スウェーデン国教会（福音ルーテル派）71.3%、その他プロテスタント4.4%、イスラム教5%
- (7) 略史 (i) 古代スウェーデン・バイキングとして主にフィンランド・東スラブ地域で活動していました。(ii) 16世紀から17世紀にかけては対外戦争を広く展開して現在のバルト3国やドイツ・ポーランドまで進出し、バルト帝国と呼ばれる覇権国に成り上りました。(iii) 18世紀初頭の大北方戦争でデンマーク、ポーランド、ロシアに敗れてスカンジナビア以外の大部分を失いました。(iv) 18世紀から始まるナポレオン戦争に巻き込まれ、ノルウェーを得ましたが、600年支配したフィンランドの割譲をロシアに迫られました。
- (8) その他 (i) オーレスン橋、南部マルメとデンマークのコペンハーゲンを結ぶ16km。橋、人工島、海底トンネルから成ります。(ii) サーミ人、スカンジナビア北部のラップランドで、トナカイで生計を立ててきた先住民族。

第5. 南ヨーロッパ（8ヶ国）

1. アンドラ公国 (Principality of Andorra)

- (1) 概要 フランスとスペインに挟まれたピルネー山脈中にあり、フランス大統領とスペイン（カタルーニャ）のウルヘル司教の2名による共同公を元首とするミニ国家で、イベリア半島に属しています。9世紀初めに生まれたスペイン辺境領の一つ。
- (2) 面積 468km²、人口 7.7万人
- (3) 言語 カタルーニャ語（公用語）、フランス語、スペイン語
- (4) 国籍 アンドラ36.7%、スペイン33%、ポルトガル16.3%、フランス6.3%、イギリス1.3%
- (5) 宗教 キリスト教93.4%（カトリック89.1%）

2. スペイン王国 (Kingdom of Spain)

- (1) 首都 マドリード (Madrid) (人口 318.6万人)
- (2) 面積 50.6万km² (日本の約1.3倍)
- (3) 人口 4,675.5万人 (日本の約4割)
- (4) 言語 スペイン語（公用語）、地方公用語（カタルーニャ語、ガリシア語、バレンシア語、バスク語、アラン語）
- (5) 民族 スペイン人44.9%、カタルーニャ人28%、ガリシア人8.2%、バスク人5.5%、アラゴン人5%、ロマ人2%
- (6) 宗教 キリスト教78%（カトリック77%）、イスラム教2.5%、その他（主に無宗教）19.5%
- (7) 略史 (i) 紀元前201年ローマ帝国の属領となりました。(ii) 西ゴート民族が移住してきて、415年西ゴート王国が成立。(iii) 8世紀初めイスラム教徒が進出。756年ウマイヤ朝が支配。(iv) キリスト教徒によるレコンキスタ（再征服運動）を経て、1492年イスラム教徒を半島から追放してスペイン支配を確立。この年はコロンブスがアメリカ大陸に到達した年でもありました。(v) 1516年ハプスブルク朝スペインの始まり。(vi) 1588年無敵艦隊がイギリスに敗北。(vii) スペイン継承戦

争（1701年～1714年）。(viii) 19世紀には殆ど海外植民地を失う。(ix) 20世紀には内戦と1939年にはフランコ将軍の軍事独裁政権。1975年フランコ死後、王制が復活。1978年に新憲法制定。

(8) その他 (i) 近年の建築技術やITの発展により、サグラダ・ファミリアの工期が大幅に短縮され、完成予定は2026年。

3. ギリシャ共和国 (Hellenic Republic)

(1) 首都 アテネ (Athens) (人口 66.4万人)

(2) 面積 13.2万km² (日本の3分の1強)

(3) 人口 1,042.3万人 (東京23区より少し多い)

(4) 言語 現代ギリシャ語 (公用語)

(5) 民族 ギリシャ人90.4%、マケドニア人1.8%

(6) 宗教 ギリシャ宗教90%、イスラム教 (スンナ派) 5%

(7) 地勢 9つの地理的地域からなり、マケドニア、中央ギリシャ、ペロポネリス半島、テッサリア、イビロス、エーゲ海諸島、西トラキア、クレタ島、イオニア諸島。約3,000の島嶼のうち227島に居住者がいます。

(8) 略史 (i) 紀元前8世紀ごろ多数のポリス (都市国家) が成立。(ii) 紀元前338年古代マケドニア王国がポリスの連合軍を破りギリシャを支配。(iii) ヘレニズム時代を経て紀元前2世紀、ローマの属州に。(iv) 4世紀、ローマ帝国が東西に分裂した後は、東ローマ帝国に属しました。(v) 1204年第4回十字軍により東ローマ帝国は崩壊。(vi) 15世紀末までには全土がオスマン帝国に征服されました。(vii) 1821年ギリシャ独立戦争。(viii) 1832年王国として独立。(ix) 1912年～1913年バルカン戦争に勝利。(x) 第2次世界大戦中はイタリア、ドイツが侵入。戦後の1946年から1949年までは内戦。(xi) 1967年クーデターが発生し、軍事政権が成立しましたが、1974年民政復帰し、王制廃止、共和制へ移行しました。

4. イタリア共和国 (Italian Republic)

(1) 首都 ローマ (Rome) (人口 286.7万人)

(2) 面積 30.2万km² (本州+北海道くらい)

(3) 人口 6,046.2万人 (日本の約半分)

(4) 言語 イタリア語 (公用語)

イタリアは歴史的に別の国に分かれていたため方言の差が激しいとされています。ダンテ・アリギェーリ (1265年～1321年) が、叙事詩『神曲』で採用したトスカーナ方言が標準的なイタリア語になったと言われています。

(5) 民族 イタリア人96.0%、アルバニア人1.3%

(6) 宗教 カトリック83%、イスラム教2%

(7) 略史 (i) ギリシャ時代より都市国家が成立。王制・共和制・三頭政治を経て、紀元前27年帝制となりました。(ii) 395年東西に分裂、476年西ローマ帝国の没落後、東ゴート人が侵入。(iii) さらにビザンツ帝国 (東ローマ帝国) 下でランゴバルト人が6世紀に侵入して建国。(iv) その後フランク王国、神聖ローマ帝国を経て、11世紀末から小都市国家の乱立が数世紀続きました。(v) 14～16世紀ルネッサンス文化が栄え

ました。(vi) 19世紀に独立・統一運動が起こり、1861年、サルデーニャ王国がオーストリア勢力を排除して統一イタリア王国が成立。(vii) 第1次世界大戦では初めは中立を宣言しましたが、その後連合側となりました。(viii) 1922年ムッソリーニによるファシスト政権が誕生。(ix) 1937年ムッソリーニによるファシスト政権が独立。(ix) 1987年日独と防共協定。第2次世界大戦で枢軸国側で敗北。(x) 1946年王政廃止。1948年共和国として発足。

(8) その他 (i) 西ローマ帝国の滅亡からイタリア統一までに要した時間は約1400年。この間に育った郷土愛がイタリア人の心の支えであります。

5. マルタ共和国 (Republic of Malta)

(1) 概要 1530年ロードス島を追われた聖ヨハネ騎士団(後のマルタ騎士団)の所領となりました。1565年、オスマン帝国から攻撃を受けますが、劣勢を覆しオスマン軍を撃退した名将がジャン・ド・ヴァレット騎士団長で彼が守った砦が後にこの国の首都となりました。その後1798年のナポレオン侵攻、1800年のイギリス軍のマルタ占領、1964年英連邦内の1国として独立、大統領制に移行(マルタ共和国)して、イギリス軍は全面撤退となりました。

(2) 首都 バレッタ (Valletta) (人口 5, 680人)

(3) 面積 315km² (淡路島の約半分)

(4) 人口 44.2万人

(5) 言語 マルタ語(公用語)、英語(公用語)

(6) 民族 マルタ人97%、イギリス人1.2%

(7) 宗教 カトリック95%、イスラム教0.7%

6. ポルトガル共和国 (Portuguese Republic)

(1) 首都 リスボン (Lisbon) (人口 50.6万人)

(2) 面積 9.2万km² (北海道+鹿児島くらい)

(3) 人口 1,019.7万人 (東京23区より少し多い)

(4) 言語 ポルトガル語(公用語)、ミランダ語(アストウリア語)(ミランダ=ドウロ郡などの公用語)

(5) 民族 ポルトガル人91.9%、アフリカ系との混血1.6%、ブラジル人1.4%、マラーノ人1.4%

(6) 宗教 キリスト教89.7%(カトリック84.5%、プロテスタント0.6%、正教0.2%)、イスラム教0.1%

(7) 略史 (i) 1143年王国が成立。1385年スペインから独立。(ii) 15世紀から16世紀にかけて海洋国家として雄飛。(iii) 1580年ハブスブルグ朝スペインに併合。(iv) 1640年ポルトガル王政復古戦争。(v) 1808年-1821年までブラジルのリオデジャネイロがポルトガルの首都(ナポレオン戦争により王室が亡命。)(vi) 1822年植民地ブラジルが独立。(vii) 1932年-1974年アントニオ・サラザール首相の独裁体制。(viii) 1974年国軍革新派の無血クーデターで、アフリカの植民地独立。更に東ティモールからも撤退(カーネーション革命)。

(8) その他 (i) 世界のコルクの半分がポルトガル産。(ii) 魂の調べ、ファド(ポルトガル版、演歌)

7. サンマリノ共和国 (Republic of San Marino)

- (1) 概要 イタリア半島の中東部に位置する共和制国家で、国土の周囲は全てイタリア。国土の面積は東京都の大田区と同じ位。世界で5番目に小さなミニ国家で、現存する世界最古の共和国です。16世紀にはチェーザル・ボルジアに18世紀末にはナポレオンに、第2次世界大戦には枢軸国と連合軍の双方に侵略されましたが、国は今日まで断絶していません。
- (2) 首都 サンマリノ (人口 4, 438人)
- (3) 面積 61km²
- (4) 人口 3.4万人
- (5) 言語 イタリア語 (公用語)
- (6) 民族 サンマリノ人84.8%、イタリア人13.4%
- (7) 宗教 キリスト教99.2% (カトリック88.7%)
- (8) その他 好事家を捉え続ける美しい切手が有名

8. バチカン市国 (State of the City of Vatican)

- (1) 首都 バチカン
- (2) 面積 0.44km²
- (3) 人口 809人
- (4) 言語 ラテン語 (公用語)、フランス語 (外交用語)、イタリア語 (業務用語)、ドイツ語 (スイス衛兵隊)
- (5) 民族 イタリア人、スイス人など
- (6) 宗教 カトリック
- (7) 概要 (i) イタリアは19世紀に統一されるまで長く動乱が続き、バチカン市国の土台であるローマ教皇領は時を経るに従い小さくなりました。1870年に普仏戦争勃発によって教皇領の守備に当たっていたフランス軍が撤退すると、イタリア軍が残存教皇領も全て撤収し、バチカンはイタリア領となりました。1929年2月11日、バチカン全権代理とムッソリーニ首相との間で合意が成立し、教皇庁が教皇領の権利を放棄するかわりに、バチカンを独立国家として、特別な地位を保証しました。(ii) イタリアとの出入国は自由。国境もガードレール風の柵があるだけで、国境検問所の類は一切無く、よって無入国、管理体制もありません。(iii) 1981年のヨハネ・パウロ2世の来日時に、それまで混用された「教皇」と「法王」の呼称を統一するため、「教皇」への統一を定めました。しかし、日本政府は、クーデターなどによる国名変更時に当たらないので、この変更は認めず、「ローマ法王庁大使館」の名称が使用されていました。2019年11月20日、第266代教皇フランシスコの来日を目前にして、日本政府及び外務省は「ローマ教皇」の呼称を変更しました。

第6. 西ヨーロッパ (11ヶ国)

1. オーストリア共和国 (Republic of Austria)

- (1) 首都 ウィーン (Vienna) (人口184万人)
- (2) 面積 8.4万km² (北海道とほぼ同じ)
- (3) 人口 900.6万人 (神奈川県とほぼ同じ)
- (4) 言語 ドイツ語 (公用語)、トルコ語
- (5) 民族 オーストリア人84.8%、旧ユーゴスラビア人3.9%、ドイツ人2.2%、トルコ人1.9%

- (6) 宗教 キリスト教81.5% (カトリック73.7%、プロテスタント4.7%、正教2.2%)、イスラム教4.2%
- (7) 略史 (i) 中欧650年間ハプスブルク家の帝国として君臨し、第1次大戦まではイギリス、ドイツ、フランス、ロシアと並び欧州五大国(列強)の一角を占めていた。(ii) 1918年、第1次世界大戦の敗戦と革命により1867年より続いたオーストリア＝ハンガリー帝国が解体し、共和制(第一共和制)となりました。(iii) この時点で多民族国家だった旧帝国のうち、かつての支配民族のドイツ人が多数を占める地域におおむね版図が絞られました。(iv) 1938年には同じ民族であるナチス・ドイツに併合されました。(v) ドイツ敗戦後の1945年から1955年には連合軍による分割占領の時代を経て、1955年の独立回復と衛生中立国化により現在に続く体制となりました。

2. ベルギー王国 (Kingdom of Belgium)

- (1) 首都 ブリュッセル (Brussels) (人口 155万人)
- (2) 面積 3.1万km² (岩手県の約2倍)
- (3) 人口 1,159万人 (東京都の約0.8倍)
- (4) 言語 オランダ語(フラマン語)(公用語)、フランス語(ワロン語)(公用語)、ドイツ語(公用語)
- (5) 民族 オランダ系フラマン人58%、フランス系ワロン人32%、混血・移民(南ヨーロッパ系・北アフリカ系・トルコ系など)
- (6) 宗教 カトリック57%、イスラム教4%
- (7) 概要 思った以上に複雑な国です。西ヨーロッパは北のゲルマン語圏(英語、ドイツ語、オランダ語など)と南のロマンス語圏(フランス語、スペイン語、イタリア語など)に分かれ、ベルギーはその境界にあるゆえ多様性に富んでいます。
- (8) 略史 (i) 近世この地域は毛織物で知られる南ネーデルランドの一部でした。(ii) 南ネーデルランドがスペイン帝国に支配された16世紀に、プロテスタントが増えた北部が独立してオランダとなりました。(iii) カトリックが多い南部はスペインに残り、この南部が現在のベルギーです。(iv) 1815年ウィーン会議でオランダの統治下となりましたが、1830年ベルギー独立革命によってベルギー王国が誕生しました。(v) 第1次・第2次世界大戦でドイツの侵略を受けました。(vi) 1960年オランダ・ルクセンブルグとベネルクス経済同盟を結成。(vii) 1993年連邦国家となりました。(viii) 2010年と2019年には連立政権が組めず各1年半も内閣不在に終わりましたが、それでも国が回ったのは、地方自治の底力があるからです。

3. スイス連邦 (Swiss Confederation)

- (1) 首府 ベルン (Bern) (人口 41万人)
- (2) 面積 4.1万km² (九州より少し大きい)
- (3) 人口 865.5万人 (大阪府位)
- (4) 言語 公用語(ドイツ語63.7%、フランス語20.4%、イタリア語6.5%、ロマンシュ語0.5%)
- (5) 民族 ドイツ人65%、フランス人18%、イタリア人10%、ロマンシュ人1%

- (6) 宗教 キリシト教79.3% (カトリック41.8%、プロテスタント35.3%、正教1.8%)、イスラム教4.3%、ユダヤ教0.2%
- (7) 略史 (i) 1291年、現在のスイスの中部にあるウーリ、ジュヴイーツ、ウンターヴァルデンの3州である「森の3州」が領土防衛のために盟約を結びました。(ii) 14世紀までに盟約州は8州に増え、現在のスイスの中核ができあがりました。(iii) 16世紀に宗教改革が始まるとスイスでもプロテスタントの州とローマ・カトリックの州の間で内戦が起きました。(iv) 30年戦争(1618~1648年)ではスイス人傭兵がヨーロッパ全域の戦場に出ましたが、スイス諸邦は中立の立場を守り、1648年ウエストファリア条約により神聖ローマ帝国より正式に独立しました。(v) 1815年ウィーン会議で永世中立が認められました。

4. ドイツ連邦共和国

(Federal Republic of Germany)

- (1) 首都 ベルリン (Berlin) (人口 352万人)
- (2) 面積 35.8万km² (日本よりやや小さい)
- (3) 人口 8,378.4万人 (日本の約3分の2)
- (4) 言語 ドイツ語 (公用語)
- (5) 民族 ドイツ人88.2%、トルコ人3.4%、イタリア人1%
- (6) 宗教 カトリック30.7%、プロテスタント29.9%、イスラム教4.9%、正教1.7%、仏教0.3%、ユダヤ教
- (7) 略史 (i) 4世紀にゲルマン民族がヨーロッパに定着。(ii) 8~9世紀にフランク王国のカール大帝が領土を西洋の大半に拡張しました。(iii) 911年最近のドイツ国王として東フランク王国のコンラート1世が即位。その後、神聖ローマ帝国が962年に始まり、1806年ナポレオンによるライン同盟の結成を機に消滅するまで続きました。(iv) 1618年からの30年戦争の結果、諸公国に分裂し、この内、力を持ったのがプロイセン。(v) 普仏戦争(1870~1871年)でプロイセンが大勝利、1871年ドイツ帝国が誕生しました。(vi) 1918年第1次世界大戦に敗北、ワイマール憲法が誕生しました。(vii) 1933年ヒットラーが政権につき、1939年第2次世界大戦に突入し、1945年敗北。(viii) 1989年11月「ベルリンの壁」を撤廃、1990年10月3日東ドイツが西ドイツに編入され、東西ドイツが統一。

5. フランス共和国 (French Republic)

- (1) 首都 パリ (Paris) (人口 224.3万人)
- (2) 面積 64.1万km² (日本の約1.5倍)
- (3) 人口 6,751.6万人 (日本の約半分)
- (4) 言語 フランス語 (公用語)
- (5) 民族 フランス人 (ケルト・ゲルマン系・古代ローマなどの混成)、少数民族 (ブリトン・バスク・コルシカなど)、移民 (南ヨーロッパ系・マグレブ系・トルコ系など)
- (6) 宗教 カトリック64%、プロテスタント3%、イスラム教8%、仏教1.2%、ユダヤ教0.9%
- (7) 略史 (i) 古代ケルト人が暮らしたこの地をローマ人はガリアと呼びました。(ii) そこにゲルマン人が移動してくるとフランク王国が興り、

カール大帝が西ヨーロッパのほぼ全域を手中に収めました。やがてフランク王国は分裂し、うち西フランク王国がフランスの源流となりました。(iii) 英仏間の百年戦争(1337-1453年)、カトリックとプロテスタントが戦ったユグノー戦争(1562-1598年)を経て、17世紀にルイ14世が絶対王制を確立。(iv) 1789年フランス革命。1792年王政を廃止して共和制へ。(v) 1804年ナポレオンの帝政。(vi) 1848年の革命で第2共和制へ。(vii) 1852年ルイ=ナポレオンは第2帝政をしいたが、普仏戦争(1870-1871年)に敗れ第3共和制へ。(viii) 1946年第4共和制が発足、1958年第5共和制へ。

6. アイルランド (Ireland)

(1) 概要 古代ヨーロッパにはケルトと呼ばれる独自の文化を持つ人がいました。紀元前6~5世紀にケルトの一部がアイルランドにたどり着きました。島にはローマの支配が及ばず、ヨーロッパ本土と異なりケルト文化が高い純度で維持されました。紀元5世紀には聖パトリックが来てローマ・カトリックをもたらしました。イングランドのプロテスタントがやってきたのは16世紀後半からで、彼等は1690年のボイン川の戦いに勝つと、アイルランドを征服しカトリックを迫害しました。1845年のジャガイモ飢饉では百万人以上が死に、また北米などに脱出しました。アイルランドの人はひたすらイギリスによる迫害に耐え忍びました。第1次大戦中、1916年にイギリスからの独立を目指し、血みどろの闘争の末に1949年にアイルランド共和国として独立しました。しかし、この時に北アイルランドはイギリスに残ったままだったので、特に1960年代以降、北アイルランドのカトリック過激派IRAがテロをおこし紛争に発展しました。98年北アイルランド包括和平合意。99年自治政府が発足。02年10月北アイルランドの自治を凍結。直轄統治が復活と複雑な経緯をたどっています。最近のイギリスのEU離脱が北アイルランド問題に再び紛争を引き起すのではないかと一部の報道もあります。何とか収めてもらいたいものです。

- (2) 首都 ダブリン (Dublin) (人口52.7万人)
- (3) 面積 7.0万km² (北海道の8割強)
- (4) 人口 493.8万人 (福岡県よりやや少ない)
- (5) 言語 アイルランド語 (ゲール語)、英語
- (6) 民族 アイルランド人 84.5%
- (7) 宗教 キリスト教92.5%(カトリック86.8%、・聖公会3%)

7. リヒテンシュタイン公国 (Principality of Liechtenstein)

- (1) 首都 ファドーツ (Vaduz) 5,429人
- (2) 面積 160km² (小豆島くらい)
- (3) 人口 3.8万人
- (4) 言語 ドイツ語 (公用語)、アレマン語 (ドイツ語の方言)
- (5) 民族 リヒテンシュタイン人66.6%、スイス人10%、オーストリア人5.7%、ドイツ人3.5%、イタリア人3.3%
- (6) 宗教 カトリック79%、プロテスタント7.3%
- (7) 略史 (i) 1719年、神聖ローマ帝国皇帝はリヒテンシュタイン家にこの土地の統治を認めました。(ii) 1806年帝国崩壊後に国家はド

イツ勢力に属しながら、1866年プロイセン＝オーストリア戦争によりドイツ連邦が解体されると独立。(iii) その後はオーストリアと関係を深めました。同国が第一次世界大戦で敗北するとスイスに近づき通貨と外交を任せるほどの蜜月が今も続きます。また郵便や電話の制度はスイスと共通となっています。

(8) その他 (i) 君主リヒテンシュタイン公は、議会の解散や法案の拒否権を持ち、強い政治権力を持っています。(ii) 国内に空港は存在せず、もっとも近い国際空港はスイスのチューリッヒ空港です。

8. ルクセンブルグ大公国 (Grand Duchy of Luxembourg)

(1) 首都 ルクセンブルグ (人口11.5万人)

(2) 面積 2,586km² (佐賀県より少し大きい)

(3) 人口 62.6万人 (島根県より少し多い)

(4) 言語 ルクセンブルグ語 (公用語)、フランス語 (公用語)、ドイツ語 (公用語)

(5) 民族 ルクセンブルグ人56.3%、ポルトガル人16.2%、フランス人5.8%、イタリア人3.9%、ベルギー人3.4%、ドイツ人2.4%

(6) 宗教 カトリック90%、プロテスタント3%、イスラム教2%

(7) 国土発展の理由 現在は金融センターとして知られていますが、近代の発展は鉄のおかげで、この南西部にはフランスのロレーヌ地方から広がる鉄鉱石の鉱床がありました。

(8) 略史 (i) 936年にアルデンヌ伯シーグフリート (彼の妻の真の姿は人魚であると言われている) が、アルゼット川沿いのルシンプルク城を入手。(ii) 1815年オランダ国王を大公とするルクセンブルグ大公国となりました。(iii) 1839年西部をベルギーに割譲。(iv) 1867年永世中立国を宣言。(v) 1890年オランダとの同盟解消。(vi) 1945年国連加盟。(vii) 1948年オランダ・ベルギーとともにベネルクス関税同盟を結成。(viii) 永世中立を破棄し、NATOに加盟。

9. モナコ公国 (Principality of Monaco)

(1) 概要 モナコを統治するグリマルディ (Grimaldi) 王家の本格的な支配が始ったのは13世紀。以降グリマルディは、スペインとフランスの保護を受ける時代、フランス革命とそえに続く動乱、失脚と復活を経験しながら家名を繋ぎました。晴れて独立国家となったのは1819年。

(2) 面積 2km² (バチカンに次いで小さい)

(3) 人口 3.9万人 (沖縄県読谷村より少し少ない)

(4) 言語 フランス語 (公用語)

(5) 民族 フランス人28%、モネガスク (モナコ国籍) 22%、イタリア人19%、イギリス人7.5%

(6) 宗教 キリスト教93.2% (カトリック89.3%)、ユダヤ教1.7%

10. オランダ王国 (Kingdom of the Netherlands)

(1) 首都 アムステルダム (Amsterdam)

(人口 82.1万人)

(2) 面積 4.2万km² (九州より少し大きい)

- (3) 人口 1, 713. 5万人 (神奈川県+大阪府くらい)
- (4) 言語 オランダ語 (公用語)
- (5) 民族 ヨーロッパ系85. 1% (オランダ人79. 7%)、移民14. 9% (インドネシア系2. 3%、トルコ系2. 3%、スリナム系2. 1%、モロッコ系2. 1%、アンティルとアルバ系0. 8%)
- (6) 宗教 カトリック30%、プロテスタント20%、イスラム教5. 8%、無宗教42%
- (7) 略史 (i) 中世にはホラント伯領などいくつかに分かれていました。15世紀にブルゴーニュ公国の一部となり、さらにハプスブルグ家の支配下に。1556年スペイン=ハプスブルグ家の領土となる。(ii) 1568年スペイン独立戦争(80年戦争)。(iii) 1648年の終結で国際的に独立を承認。戦争で先陣を切ったオラニエ公ウイヘルム1世の「オラニエ」はオレンジを意味します。(iv) 独立戦争と並行して黄金時代が訪れました。1602年には世界初となる多国籍株式会社の東インド会社を立ち上げました。(v) 17世紀後半にはイギリスとの戦争に敗れ衰退しました。(vi) 1815年ウィーン会議により南ネーデルランドを含むオランダ王国になりました。1839年南部のベルギーが分離・独立。1890年ルクセンブルグ独立。(vii) 第1次世界大戦中は中立。

11. グレートブリテン及び北アイルランド連合王国(イギリス) United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland

- (1) 首都 ロンドン (London) 人口878. 7万人
- (2) 面積 24. 2万km² (日本の約3分の2)
- (3) 人口 6, 788. 6万人 (日本の半分強)
- (4) 言語 英語 (公用語) が大部分、アイルランド語、ウェールズ語、スコットランド=ゲール語、少数言語 (コーンウォール語、スコットランド語、マン島語)
- (5) 民族 白人92. 1% (イングランド人83. 6%、スコットランド人8. 6%、ウェールズ人4. 9%、北アイルランド人2. 9%)、黒人2%、インド人1. 8%、パキスタン人1. 3%
- (6) 宗教 キリスト教 (英国国教会が主) 71. 6%、イスラム教2. 7%、ヒンドゥー教1%
- (7) 略史 (i) イングランドは、ゲルマン人がすでにこの地域にいたケルト人に代って出た国。(ii) スコットランドはそのゲルマン人の支配が及ばなかったケルト色の強い国。ウェールズはイングランド人の支配に抵抗し続けたケルト色の強い国。北アイルランドには、イングランドがアイルランドに向かわせた同族の末裔が暮らしています。(iii) 1066年ノルマン人が侵入し、ノルマン王朝を樹立。(iv) 1215年マグナカルタ。(v) 英仏100年戦争(1337~1453年)(vi) 英国教会の成立(1534年)。(vii) エリザベス王朝時代(1558~1603年)、スペイン無敵艦隊の撃破(1588年)。(viii) 東インド会社設立(1600年)。(ix) クロムウェル革命(1649年)で共和制。(x) 名誉革命で立憲政治を確立(1688年)。(xi) ヴィクトリア王朝時代(1837年~1901年)。

(参考文献)

- (1) 昭文堂発行『ヨーロッパ47ヶ国』
- (2) 朝日新聞出版発行『世界の国々』
- (3) 二宮書店発行『データブック・オブ・ザ・ワールド2022』
- (4) Skyhorse Publishing 発行『The CIA World Factbook 2021-2022』
- (5) Wikipedia

(2022年10月7日脱稿)



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都新宿区百人町4-4-16-1218 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5389-8449 FAX：03-5389-8449

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp <http://just-int.com/>

2023年4月5日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫

***純正律音楽研究会 YouTube チャンネルを開設しました。**

コンサートや CD 紹介の映像が当会ホームページからご覧いただけます。

<http://just-int.com/>